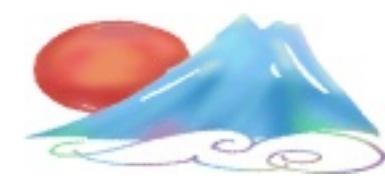


熊本県救護施設協議会

熊 救 協

<http://kumakyukyo.sakura.ne.jp>



ごあいさつ

最後のセーフティ・ネット救護施設

熊本県救護施設協議会会長 藤本和彦

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、熊本県救護施設協議会及び傘下の各施設が大変お世話になりました。厚く御礼申し上げますと共に、本年も、引き続き、宜しくお願い申し上げます。

さて、人は病気やケガ、失業、貧困など長い人生の中で、様々なリスクに遭遇します。これらの問題に対して、現在の日本では、社会保障という仕組みで対応しています。この社会保障の中で、国民の生活が破綻しないように、所得補償する制度には、給付要件と資金調達という観点から、大きく社会保険と公的扶助に分けることができます。社会保険（失業保険や年金等）は、生活の破綻を事前に防止する防貧機能を、公的扶助である生活保護は、国民の最低限度の生活を公費により保証する救貧機能を有することになります。

日本の社会保障の設計は、自助・共助の仕組みである国民皆保険制度に象徴されるように社会保険を中心としており、公的扶助は社会保険でカバーできない部分の救済の役割を担っています。

ところが、近年の経済の停滞、所得格差の拡大、高齢化、家族機能の低下は、公的扶助の役割を大きくクローズアップさせつつあります。

私ども救護施設は、生活保護法に規定された救貧機能を担う保護施設として、その時代、その地域において最も生活に困窮している方の支援に柔軟に応えられるよう時代の要請に応じた自己改革と自己研鑽を続けています。生活困窮者問題でお困りの場合は、近くの救護施設に、お気軽にご相談ください。

～ 地域貢献事業への取り組み～ 千草寮編

千草寮では、地域貢献事業として『ボランティア活動』、『地域のふれあいフェスタ参加』『高校生のインターンシップ受け入れ』等を行っています。

今回はボランティア活動～近隣公園の清掃奉仕作業～についてご紹介させていただきます。

これまでのボランティア活動といえば、施設周辺のゴミ拾いを不定期に実施するぐらいでしたが、今年度より、当施設のボランティア委員会を中心に計画立案し実施しています。市役所の方のご協力もあり月2回程度近隣公園の清掃奉仕作業を行い活動を行う入所者さんは毎回とても楽しみにされておられ 雑草等があまり生えていない時期でもどこかにないかと探すほどです。平成27年10月には市役所からの取材もあり、町の広報誌に活動の様子を取り上げて頂きました。これからも継続した地域貢献ができ「千草寮のみなさんのおかげで・・・」と言ってもらえるように実績を積み上げて行きたいと思います。

地域のふれあいフェスタ(八代市主催)参加とインターンシップ(高校生)受け入れは合わせて写真でご紹介させていただきます。

ボランティア活動



ふれあいフェスタ参加



インターンシップ受け入れ



【銀杏寮】 ～わくわく風船バレー大会！～

11月21日に熊本市社会教育振興事業団主催の第19回わくわくふうせんボール大会に参加しました。今回はあまり練習することが出来ず、緊張しながら試合当日を迎えましたが、いざ試合本番となると皆さんの「出るからにはやっぱり勝ちたい」という気持ちが随所に見られ、練習では見られなかったナイスプレーが何度も出ていました。又、今回のチーム名である「安心して下さい。拾いますよ。」の名前どおり拾って拾って拾いまくり、結果、なんと準優勝する事が出来ました。試合後の利用者の皆さんの満足そうな笑顔がとても印象に残っています。今後もこのようなスポーツを通して心と身体のリフレッシュを図れたらと思います。



【真和館】 ～卓球バレー国体出場！！～



10月17日～10月19日、「全国障害者スポーツ大会紀の国わかやま大会卓球バレー（オープン競技）」に九州・山口の代表3チームの中の1チームとして参加しました。予選リーグ2試合に出場、2試合ともに勝利した結果、決勝トーナメントへ進みました。残念ながら決勝トーナメントの初戦で僅差で負けて、結果はベスト8になりました。日々の練習の努力と仲間同士の思いやりがチームワークの良さとなり、全国大会への切符を獲得できたと思います。長旅の疲れも見られましたが、今大会で得た自信と誇りを胸に、これからも成長していきたいと思っています。

【菊池園】 ～忘年会で盛り上がりました！～



毎年恒例の菊池園忘年会を開催しました。この日は、全利用者、職員とで昼食を一緒に摂り、その後ビンゴゲーム大会で盛り上がりました。「リーチ！！」と言ったもののなかなかビンゴにならない人や、気づいた時にはもう“ビンゴ”になっている人など様々でした。リーチになった人には、施設長からプレゼントが手渡され、皆さん笑顔で1年を締めくくることができました。そして、新たな気持ちで新年を迎え、今年の抱負を一人一人が胸に抱いてるところです。



熊救協 2016 1月号 (No.27) 編集後記

明けましておめでとうございます。友愛会銀杏寮で働いて2年目、熊救協調査・研究委員会として1年目を迎えました。私は、去年の夏に初めて感染性胃腸炎にかかりました。これからノロウイルス・インフルエンザ等流行しますので利用者・職員とも体調管理をして施設内に持ち込まないようにしましょう！

＜熊救協調研委員：森野 貴恵（銀杏寮）＞

編集：熊本県救護施設協議会 事務局：〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村大字鳥子3072番地
調査・研究委員会 真和館 TEL (096) 279-1121
発行：熊本県救護施設協議会 FAX (096) 279-1122

熊救協研修委員会報告

第1回熊救協職員研修会

期日：平成27年6月18日（木）

場所：熊本市青年会館



利用者サービスの質の向上に重点を置き、利用者支援研修を主体的に実施することで、職員の専門職としての資質向上を図ることを目的に開催しました。県内7施設から29名の参加があり、午前の研修では、熊本県地域生活定着支援センター副センター長 大久保等様より「触法障がい者・高齢者の理解と課題」のテーマで支援センターの業務について講話がありました。支援センターは高齢又は障害を有するため、福祉的な支援を必要とする矯正施設退所者について退所後直ちに福祉サービス等につなげるために設置されている支援機関で、保護観察所と協働しながら業務を行っているなどの話がありました。

午後からは、職種別（指導員・介護職員・看護師・栄養士及び調理員）に分かれてグループ討議を行い、各施設より事前に提出された質疑事項に沿って職種別毎に活発な意見が交わされました。

第2回熊救協職員研修会（第6回熊救協・九救協合同研修会）

期日：平成27年10月22日（木）

場所：熊本市 くまもと森都心プラザ6階A・B会議室



九州の各救護施設が足並みを揃え、心の病気（精神障害）について理解を深め、精神障害者の処遇向上を図るため、今回は、救護施設職員の「認知症の正しい理解と処遇のあり方について」を学ぶため、認知症に関する研修会を開催しました。

県内外の救護施設職員等59名の方々の参加がありました。九救協・熊救協藤本会長の挨拶のあと、熊本県精神保健福祉センター次長（精神科医）の矢田部裕介氏より「認知症の正しい理解」の演題で、認知症とは、認知症の分類・症状・治療・対応など専門的見地から詳しい説明があり原因疾患に応じた治療やケアが必要であるとの話をしていただきました。

午後からは、熊大医学部附属病院内にある熊本県基幹型認知症疾患医療センターの精神保健福祉士小嶋誠志郎氏より「認知症医療における関係機関との連携」について講話があり、高齢化とともに認知症高齢者も増加し2025年には高齢者の5人に1人が認知症になるとの推計があり、医療・介護・地域支援の連携の必要性を話されました。また熊本県は認知症サポーター養成率6年連続日本一であるとの事でした。

次に、熊本県基幹型認知症疾患医療センター看護師板橋 薫氏より「認知症ケアについて」の講話があり、認知症の原因疾患数は100以上あることや認知症の人の接し方、認知症患者が安全に日常生活を行えるための生活機能への援助など看護師としての立場からの話がありました。

休憩後、6人程度のグループに分かれ小嶋誠志郎氏、板橋薫氏を講師に図形や文章を使った問題テストや事例に基づいた検討を行いグループごとに話し合った内容を発表する形式で認知症に関わるグループワークを行いました。

各施設には、認知症あるいは認知症と思われる人が利用されており真剣に受講され有意義な研修会でした。

各施設トピックス

【千草寮】

～仮設での生活～



現在、千草寮では平成28年2月に完成予定を目標に新施設工事が行われています。平成27年8月中旬より、53名の入所者が1部屋約6～7畳という空間で4人での生活を送っています。また、狭い部屋ですがベット3つを設置している部屋もあります。布団を敷けば人一人がやっと通れるぐらいなので夜間のトイレも入所者は苦勞しています。そのトイレも数が少なく狭いためしょっちゅう混雑しています。洗面所も同じです。入所者から「あ～もう」という声も頻繁に聞かれますがトラブル等はありません。不便さ、戸惑い、苦勞はありながらも半年近く仮設での生活を送っていますが新しい施設が出来るのを楽しみに皆で協力し合ってあと少し頑張っていきたいと思っています。

【天草園】

～デイキャンプ～



例年5月と10月に、魚釣りを中心としたデイキャンプを実施しています。5月は、ガラカブ釣り・潮干狩り・山菜刈りを行い、昼食は釣った魚や天草特産のきびなごや車海老を食材とした海鮮バーベキューを無人島で実施、とても新鮮な食材により参加者からとても美味しいと好評です。又、10月はタイ釣り・ガラカブ釣り・潮干狩りの内容で実施、昼食は園手作りのお弁当と釣った魚の味噌汁を作り、とても美味しいと喜ばれています。又、残留利用者にも、毎回夕食にみそ汁で提供し利用者全員に喜んで頂いております。更に10月のデイキャンプで釣れた鯛については、後日の夕食にタイの塩焼き定食として提供し、新鮮で美味しいとたいへん喜んで頂いております。とても新鮮な食材であるため、提供日まで網に入れて活かしておき、出来るだけ食べて頂く寸前に料理をする等調理方法にこだわり、より新鮮な状態で提供に努めています。このような自然環境を活かした行事や新鮮な食材での食事等が日常的に提供出来る環境が、天草園の一番の特色であり一番良いところではないかと思います。これからも、恵まれた自然環境を活かし、のんびりとした雰囲気大切にしながら、安心安全な施設サービスの提供に努めていきたいと思っています。



【野坂の浦荘】

～緊張感の中にも楽しみを持って～



野坂の浦荘では昨年度から居宅生活訓練事業を実施しています。本年度は、女性3名の方が頑張っています。中でも調理実習では、毎回「何を作って食べようか」と、話し合いの段階から盛り上がっています。はじめは、ハラハラするような包丁使いでしたが、今では職員の手を借りなくても、料理の仕込み等の下準備は完璧で、「次はどうすると？」「あれはどうしたらおいしいと？」と質問が飛びかうようになりました。

今日は寒くなってきたので、豚汁と味噌豚を作りました。美味しそうに見えるでしょ。時にはレトルト食品も利用していますが、やっぱり自分達で作った料理が一番美味しいようです。次は何が出来るか楽しみです。



【しらがね寮】

～世界文化遺産を見てきました！！～



しらがね寮では、利用者の心身の状態に応じて、10月に「一泊社会見学」、「日帰り社会見学」、「お食事会」を開催しました。一泊社会見学では、世界文化遺産に登録されたばかりの荒尾市の万田坑や宇城市の三角西（旧）港を見学し、日帰り社会見学では、人吉市の国宝青井阿蘇神社でお参りした後、観光列車「田園シンフォニー」に乗って時代とともに移り変わる球磨盆地の風景を眺め、思い出話に花を咲かせておられました。お食事会では、日頃外出が困難な方々を中心に高級ホテルレストランでランチを堪能される等、それぞれが心に残る旅になったようです。

